

## ミヤコジシバリ(キク科)を愛知県渥美半島で発見

著者	傳田 哲郎, 横田 昌嗣
著者別表示	Denda Tetsuro, Yokota Masatsugu
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	48
号	1
ページ	91-92
発行年	2000-08-31
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00055288">http://doi.org/10.24517/00055288</a>

## 傳田哲郎・横田昌嗣：ミヤコジシバリ（キク科）を愛知県渥美半島で発見

Tetsuo Denda and Masatsugu Yokota : A new locality of *Ixeris nakazonei* (Asteraceae) from the Atsumi Peninsula, Aichi Pref., central Japan

琉球列島の砂浜海岸には、キク科ニガナ属のミヤコジシバリ *Ixeris nakazonei* (Kitam.) Kitam., オオジシバリ *I. debilis* (Thunb. ex Murray) A. Gray, ハマニガナ *I. repens* (L.) A. Gray の3種が、しばしば同所的に出現する。ミヤコジシバリは不規則に切れ込む羽状葉を持つことにより他の2種と区別されるが、果実や総苞外片の形態がオオジシバリとハマニガナの中間の特徴を示すことなどから、これら2種の自然交雑により生じたのではないかと推定されている (Kitamura 1942)。

ミヤコジシバリは、琉球列島の沖縄島、久米島、宮古島、石垣島、および、その近海地に固有とされる (初島 1975; 初島・天野 1994)。しかし、2000年4月27日に愛知県渥美半島伊良湖岬周辺の海岸で植物調査をおこなったところ、渥美町恋路が浜においてミヤコジシバリが確認された (Fig. 1)。恋路が浜のミヤコジシバリは、砂浜と海岸林の境界付近にまばらに生育しており、周辺にはハマニガナの他、ハマエンドウ *Lathyrus japonicus* Willd., ハマヒルガオ *Calystegia soldanella* (L.) Roem. et Schult., イワダレソウ *Phyla nodiflora* (L.) Greene, ネコノシタ *Wedelia prostrata* (Hook. et Arn.) Hemsl., コウボウムギ *Carex kobomugi* Ohwi などの海浜植物が生育していた。また、海岸林の中を通る小道に沿って、オオジシバリ十数個体がまとまって生育しているのが確認された。最も砂浜寄りに生育するオオジシバリからハマニガナの生育場所までの距離は約5mと近接しており、また、オオジシバリとハマニガナの多くの個体が同時期に開花していたことから、比較的容易に両種の交雑がおこるのではないかとと思われる。

恋路が浜のミヤコジシバリ8個体を持ち帰り染色体数を調査したところ、いずれも  $2n=32$  の四倍体であった (Fig. 2)。琉球列島産ミヤコジシバリでは、 $2n=32$  (四倍体), 40 (五倍体), 48 (六倍体) の3種類のサイトタイプが確認されている。このうち四倍体ミヤコジシバリは、ハマニガナ ( $2n=16$ ) とオオジシバリ ( $2n=48$ ) の中間の染色体数を持つことから、両種の交雑により直接生じたのではないかと推定されている (Denda and Yokota 1999)。おそらく、恋路が浜においてもオオジシバリとハマニガナの交雑がおこり、琉球列島産ミヤコジシバリとは独立に、四倍体ミヤコジシバリが形成されたものと推定される。これまでの調査から、伊豆半島南部 (静岡県下田市白浜, 九十九浜), 渥美半島 (愛知県田原町久美原), 四国南部 (高知県中村市平野の浜) など、恋路が浜以外の地域においても、オオジシバリが砂浜近くに生育しているのが確認された。さらに詳しい調査をおこなえば、これらの地域を含む広い範囲において四倍体ミヤコジシバリを発見できるのではないかとと思われる。

琉球列島ではオオジシバリが砂浜に広く進出し、しばしば海浜植物であるハマニガナよりも優占する。このような状況は、他の地域では確認することができなかった。琉球列島産の四倍体ミヤコジシバリには稔性を持つ個体が存在することが確認されているが、恋路が浜産のミヤ

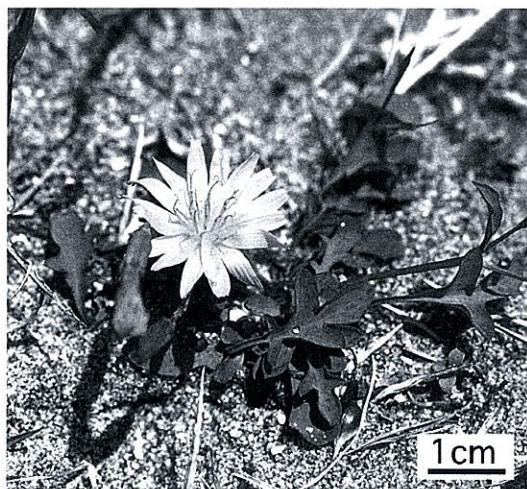


Fig. 1. *Ixeris nakazonei* in Kojigahama, Atsumi-cho, Aichi Pref. on April 27, 2000.

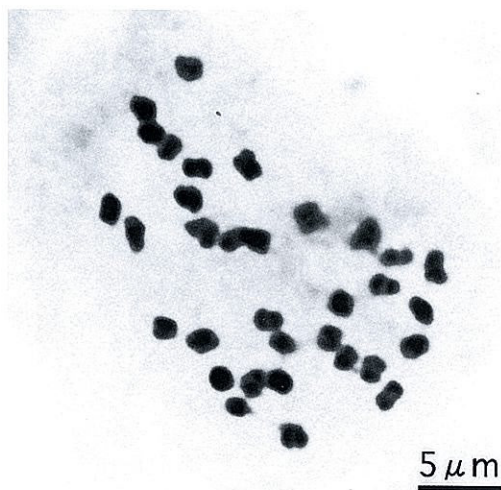


Fig. 2. Mitotic metaphase chromosomes of the tetraploid of *Ixeris nakazonei* collected from Kojigahama.

コジシバリが種子繁殖をおこなっているかどうかは不明である。また、恋路が浜で見つかったのは四倍体ミヤコジシバリのみであるが、琉球列島では、四倍体、五倍体、六倍体が混在する複雑な倍数体集団が形成されている。こうした種内倍数性がどのようにして生じたのか、また、琉球列島のオオジシバリが何故砂浜に進出できたのかについて、今後さらに詳しい調査が望まれる。なお、恋路が浜産ミヤコジシバリの標本(TD 000107)は、琉球大学理学部植物標本庫(RYU)に収蔵されている。

本調査は日本学術振興会より交付された科学研究補助金(奨励研究A:No.11740473)の援助のもとにおこなわれたものである。

#### 引用文献

- Denda, T. and Yokota, M. 1999. A cytological study of *Ixeris nakazonei* (Asteraceae; Lactuceae) in Okinawa Island, the Ryukyus. *Acta Phytotax. Geobot.* **50** : 35-42.
- 初島住彦. 1975. 琉球植物誌(追加・訂正版). 1002 pp. 沖縄生物教育研究会, 那覇.
- 初島住彦・天野鉄夫. 1994. 琉球列島植物目録(増補訂正版). 393 pp. 沖縄生物学会, 沖縄.
- Kitamura, S. 1942. Expositiones plantarum novarum Orientali-Asiaticarum VII. *Acta Phytotax. Geobot.* **11** : 120-133.
- (〒903-0213 沖縄県西原町千原1 琉球大学理学部海洋自然科学科進化・生態学講座 Laboratory of Ecology and Systematics, Faculty of Science, University of the Ryukyus, Senbaru 1, Nishihara, Okinawa 903-0213, Japan)